



全教北九州

新聞 全教北九州
全教北九州市教職員組合
2025年3月19日

全教北九州

検索

私たちの給料と組合の役割② 特集

この新聞はすべての教職員に配布しています

職務にふさわしい賃金と長時間過密労働の解消を求める

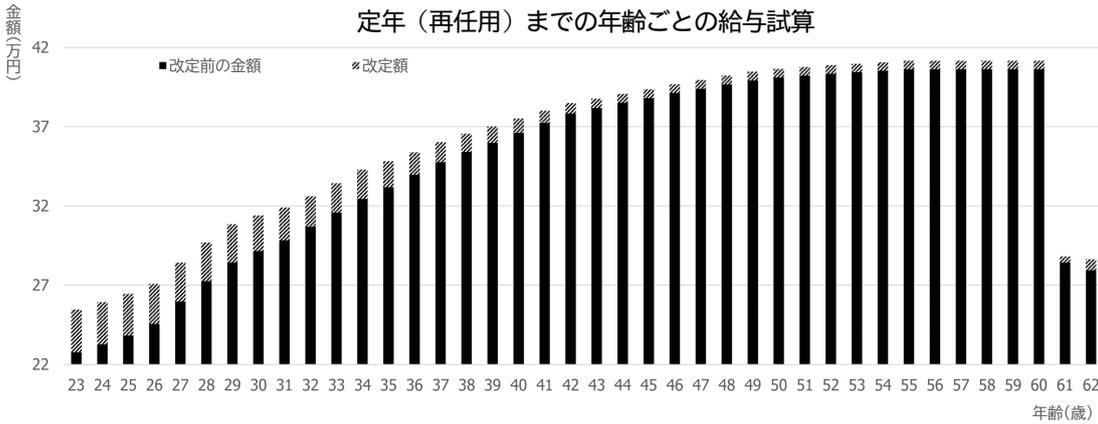
誰もが経験や働きに見合った待遇となるのが大切

北九州市は、2024年9月25日の人事委員会勧告に基づいて2・07%の給与の引き上げを行いました。この引き上げでは物価高を乗り越えることができない問題がありますが、年齢が上がるにつれて引き上げの恩恵が少なくなるという大きな問題もあります。

給与の試算で明らかになった問題点

民間企業の労働組合では、現在会社に対し要求書を提出し、3月上旬（全国労働組合総連合＝全労連の場合、一斉回答日は3月12日）の回答を待っているところが多いです。24年度、大手企業の労組では5%以上の賃上げを獲得しました。北九州市では、24年9月25日の人事委員会勧告に基づいて2・07%の給与の引き上げを行いました。再任用教職員を除く小学校・中学校の教諭は、平均4・85%（1万5513円）と大綱に示されました。この大綱をもとに、4年生大学卒業の新規採用23歳（2級17号俸）をはじめとして、毎年4号俸ずつ給与がアップしていく仮定で、定年までの各年齢の毎月の給与の額を試算してみました。

定年（再任用）までの年齢ごとの給与試算



無いに等しい状況です。詳しいデータは全教北九州のホームページをご覧ください。

給与構造改革の影響

このような給与体系となったのは、2006年から始まった給与構造改革が大きな原因です。

この改革は、地方の民間賃金と比べて国家公務員の給与が高いという理由で平均4・8%給与を切り下げ、地域手当の比重を増す、さらに年功的な給与上昇を抑制し職務・職責に応じた俸給構造に転換するというものです。これにより高齢層は7・0%の削減となりました。

教員の特異な給与体系

一般の地方公務員（行政職）は、1級職（係員19・4%）で採用され、2級（主事・主任27・2%）試験を受けそれ以降は、3級（主査21・2%）、4級（係長21・2%）、5級（課長8・1%）、6級（部長2・0%）と昇進し、それに伴って新たな給与表が適用され給与が上昇します。

（2面に続く）

Webでお見積

北九州の戦争遺跡

小倉陸軍造兵廠 技能者養成所③ (小倉北区)

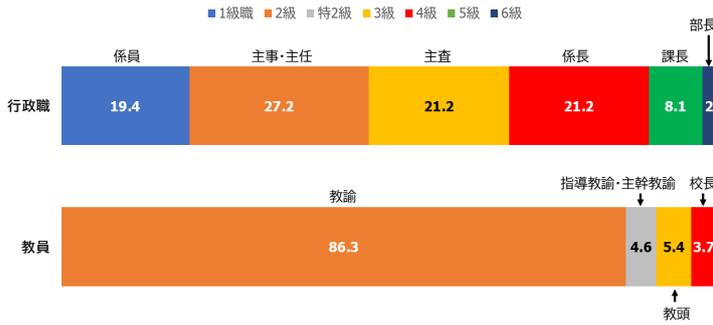
技能者養成所の施設は日豊線を挟んで白銀と東篠崎（小倉北区）に存在していました。1948年の空中写真では校舎、寮、実習工場と思われる建物が確認できます。

終戦後、造兵廠本部が連合軍に接収されたため、白銀の校舎に「陸軍小倉造兵廠残務整理部」が設置され、職員の一部、債権債務の精算、資材の売却、連合軍からの照会への対応などに従事しました。

白銀の施設は、校舎の部分に53年貴船小学校が開校し現在に至っています。翌年に完成した講堂は技能者養成所の既存建物を改造したものでした。また寮の部分はスイミングスクール、住宅地等となっています。スイミングスクールの貴船小学校の境界付近の道路に「陸共」と刻まれた境界柱が一本残っています。

東篠崎の施設は、国鉄の鉄道教習所、私立高校、国鉄社宅等をへて現在は商業施設、住宅地等となっています。

行政職と教員の職務の級ごとの構成比率 (%)



(1面からの続き)
ところが教員は1級は講師、2級が教諭(86.3%)、特2級は指導教諭・主幹教諭(4.6%)、3級は教頭(5.4%)、4級は校長(3.7%)です。
2級の教諭は、給与の構造改革で年齢と経歴を重ねても給与が低く抑えられ、行政職のように昇進することもほとんどない極めて特殊な職なのです。さらに、長時間過密労働により深刻な人手不足に陥っています。これに対し中教審(中央教育審議会)は給特法改定などを含む答申をおこない、今年の通常国会(第217国会)で34年ぶりとなる給特法改正が議論されることになっています。

長時間過密労働の抜本的解消に背を向ける給特法改定案

2月7日、石破内閣は給特法改定案等について閣議決定を行いました。この改定案は、中教審答申にもとづいており、その内容は、教職調整額を若干増額する一方で、残業代を支払わず、新たな職(主務教諭)を創設するなど職場に分断と混乱をもたらすものです。全教(全日本教職員組合)と全教北九州は、この「改定」案は深刻な長時間過密労働の抜本的解消に背を向けており、職場の現実と教職員の思いを顧みないものであると考えています。詳しくは全教中央執行委員会声明「これでは学校がもたない!」第217国会に提出される給特法等改定法案について一瞥ください。

教職員が安心して長く働き続けられる労働環境の実現と十分な収入の保障を求める

全教北九州は、「教職員の職務にふさわしい賃金改善を!長時間過密労働を解消し、健康でいきいきと働ける職場づくりを!」(全教北九州第17回定期大会スローガン)の推進・実現を目指して運動しています。

今年の春闘でも、教職員が安心して長く働き続けられる労働環境の実現、十分な収入の保障を求めて北九州市・市教育委員会との交渉に臨みます。

違いがあっても共に手をとり合う

2/23~24 「教組共闘九州沖縄ブロック学習交流集会」

2月23日(日)・24日(月祝)に宮崎県えびの市で、教組共闘九州沖縄ブロック学習交流集会(主催・教組共闘九州沖縄ブロック連絡会議)があり、立場の違いをこえて九州沖縄各地から参加者がつどいました。

初日の全体会ではまず「大丈夫?心と身体×メディア社会の中で」と題した、糸数智美さん(どんぐり子ども診療所の小児科医、宮崎県メディア安全指導員)の講演がありました。糸数さんは、心の発達には適切な時期と積み重ねが必要で、乳幼児時期に「基本的信頼感、自律心、積極性・自発性と良心」を育てることが重要であり発達

の土台となる。この時期に安易にスマートフォンやゲームなどを与えるまたは視聴させることが発達を阻害すること、また、その後(高齢者まで)も含めて心身への影響を医師としてデータを示しながらお話してくださいました。多くの人が利用するスマホですが、正しい使い方が必要であること、依存症の中で最も誰もが陥りやすいものであることを実感しました。

のあと、教育をめぐる情勢として、全教(全日本教職員組合)から第217国会で審議される給特法改定案について政府の主張と全教の要求案についての報告がありました。
二日目は、四つの分科会が開催されました。全教北九州からは2つの分科会で報告しました。生活と権利・勤務労働条件、デジタル教育、定数問題、学校統廃合、地域の方との交流で初めて知った校区の戦争被害など多彩な内容の報告でした。
▼教組共闘連絡会議
教組共闘連絡会議は、立場の違いを超えて一致できる課題についてともに学び行動することを目的とする全国組織です。全国規模の行事を実施することにも、各地方ごとの学習・交流にも取り組んでいます。



語ろう、子どもと教育

2/24 語ろう、子どもと教育 一参加と共同の学校づくり・教育課程づくり交流集会

2月24日(月祝)東京都内で「語ろう、子どもと教育」参加と共同の学校づくり・教育課程づくり交流集会」が開催され、全教北九州から2名が参加しました。
講演では、久保田貢さん(愛知県立大学教育福祉学部教授)が「戦後80年・憲法施行78年に考える」と題し、憲法の原則を確認し、学習指導要領の歪み、これから実施される改訂をどう考えるかというお話をされました。

参加した組合員は、忙しさに流され、目の前の事をこなしていく日々の中でなかなか学習指導要領のことを考える時間がありませんでした。戦争のこと、憲法のことを踏まえた久保田先生の話を聞き、学習指導要領がいかに歪んでいるのかが理解でき、改訂に向けてどう考えるのかを考えるよい機会になりました。他の先生方に伝えて行こうと思います。と話していました。